

特集2

標高 1800m からの星空 ～マナスル山荘の楽しみ方～

山本容子（マナスル山荘天文館マネージャー）

1. はじめに

南アルプスの北の外れ、標高 1955m の入笠山は花の百名山、たくさんの山野草が咲き乱れ、山頂からは 360 度の大展望が楽しめる上に、登山経験が無くても割と簡単に登れる山です。

その登山口に一番近い標高 1800m の場所にあるのが「マナスル山荘天文館」です。

2. マナスル山荘天文館

2.1 高校の天文部

日本全国夏真っ盛り、麓での気温が 40℃ 近くを記録する頃、天文館の 4 階では銀色のドームが強烈な夏の日射しを眩しく跳ね返して輝いています。

「わ～いめっちゃ涼しい、最高だね。」聞こえてきたのは夏合宿にやって来た高校の天文部の生徒たち。嬉しくてしょうがない様子で重たそうな荷物を降ろし、まずは深呼吸。空を見上げて、今夜の星の煌めきを想像する彼らの瞳はそれ以上にキラキラと輝いています。

夏休みの合宿で利用する学校は毎年 10 数校、その間は上を下への大騒ぎが始まります。みんな夕暮れが迫るとソワソワ、夕飯もそこに飛び出して観測場所にまっしぐら。そこには天頂を駆け抜ける真っ白な天の川や長く尾を引く流星が現れ、歓喜の声を上げています。草むらに寝っ転がって漆黒の宇宙空間を見上げると、す～っと夜空に吸い込まれて行きそうです。夏の短い夜が終わり薄明が始まる頃、機材を担いで戻ってくる彼らの顔は興奮と満足とで満ち足りています。そしてそれぞれの部屋に戻ると泥のように眠って

しまうのです。合宿が終了して帰る時はほとんど子たちが異口同音に「帰りたくない。ずっとここにいたい。!!」と。そんな彼らの様子を目の当たりにすると、長い合宿期間中の激務でクタクタに疲れていても嬉しさの方が勝ってしまうのです。

2.2 学生アルバイトの活躍

高校の夏合宿でその楽しさを経験した生徒たちの中には大学生になって山荘のアルバイトとして天文館に戻ってくる子がたくさんいます。大学・大学院と夏の間にはアルバイトに来ていた女の子のお話です。彼女は自他共に認める天然さんでバイト中もいろいろなことをやらかしてくれました。1 升炊きの炊飯器にお米を洗ってお水を入れずにスイッチを押してみたり、電子レンジで総菜を温めるのにタイマーを 15 分以上かけて焦がしてみたりと、顧問の先生も心配するほど日常生活は大丈夫かと心配な子でした。

でも彼女は大学在学中にマウナケア山すばる望遠鏡の研修生に選抜されてそこから撮影した星景写真を送ってくれました。今は東京天文台でも勉強中で博士課程に進むそうです。そして今でも自前の望遠鏡や防寒着を天文館に置きっぱなしで暇が出来ると時々撮影に来ています。

2.3 家族で星空観測

小学校 4 年生の夏休みの宿題に「夏の大三角を見よう。」という課題があります。ご両親や祖父母に連れられてその宿題をやりいろいろな家族がやって来ます。小さいながらも宇宙大好きで驚くほど星に詳しい子や

昔々天文少年だったお父さんに連れられて来る子など、その中でもおじいさんと一緒に来た男の子は特に熱心でドームで土星の輪っかに感動したあとはオーナーに質問攻め、私にもインタビューさせてくださいと言われ驚きました。その後、「入笠山で謎の天文台発見！」と題した素晴らしい個人新聞を作って送ってくれました。今も天文館に飾ってあります。

3. これから

天文の普及・教育などと言われると、オーナー共々身の程知らずの感が否めませんが、夜空を一緒に眺めながら一番楽しんでいるのは私たち自身かもしれません。

2020 年から 2 年間はコロナ禍にのみ込まれ、高校の夏合宿は全て中止になりました。年間の延べ宿泊者数はコロナ禍以前に比べると 4 割以下に激減しました。個人で運営している小さな宿ですので大きな痛手でした。ただ唯一の自慢は生徒たちをはじめ一般のお客様もリピーターがたくさんいていつも応援してくださっています。有難いことです。

4. おわりに

最後に私の夢は、天文館を訪れて宇宙や星が大好きになった子供たちの中から宇宙に飛び立って TV 放映でその雄姿を見ることで

す。マナスル山荘天文館で見上げた星空が原点だと言っていつの日か再び戻ってきてくれることです。

2022 年はまだまだ心配なことも多いですが、皆さんが戻ってきてくれる事を信じて頑張っていきたいと思っております。



図1 一番星(金星)と針の月を見つけ歓声をあげている子供たち

山本容子

* * * * *